

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

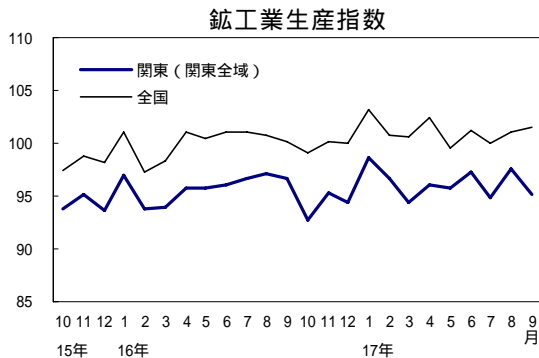
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

一般機械は、半導体製造装置が国内外向けに堅調であったことなどから、3四半期連続で増加した。化学は、石油化学品製造用触媒が低下したものの、化粧品が堅調であったことなどにより、おおむね横ばいとなった。輸送機械は、法令改正による駆け込み需要の影響がみられた鋼船の反動や自動車車体の生産移管などの影響により、2四半期連続で減少した。情報通信機械は、携帯電話が新製品の端境期で減少したことなどにより、2四半期連続で減少した。電気機械は、リチウムイオン蓄電池がアジア向けに堅調であったことなどにより、2四半期連続で上昇した。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年9月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	1.7	1.0	0.3	0.1
化学	13.7	0.6	0.6	0.8	3.3
輸送機械	11.3	4.2	9.8	4.0	11.7
情報通信機械	8.6	6.4	5.9	0.0	3.1
電気機械	7.9	5.7	2.5	1.2	3.7
鉱工業	100.0	0.2	0.4	0.7	1.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

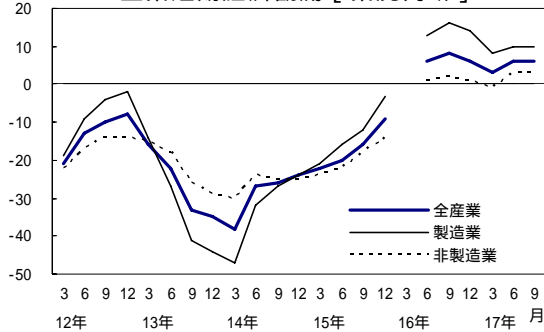
2. 7~9月期は速報値。

3. 7~9月期の化学の生産、出荷については、7月、8月
確報値の平均より算出。在庫については、8月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

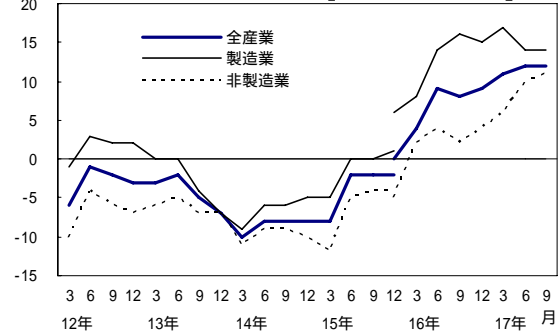
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

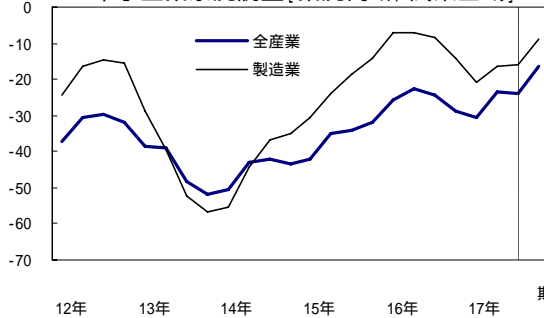
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見直し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「取引先の不動産業者が、物件の動きは良くなっているが、不動産価格の上昇で適正な利益の確保が難しくなっていると話している(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

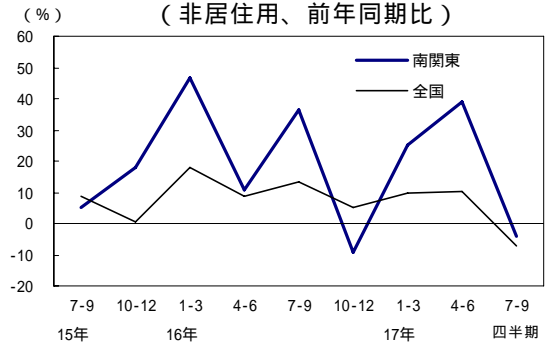
企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	23.0	22.4(0.4)
製造業	26.8	26.1(1.7)
非製造業	15.0	13.7(6.4)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

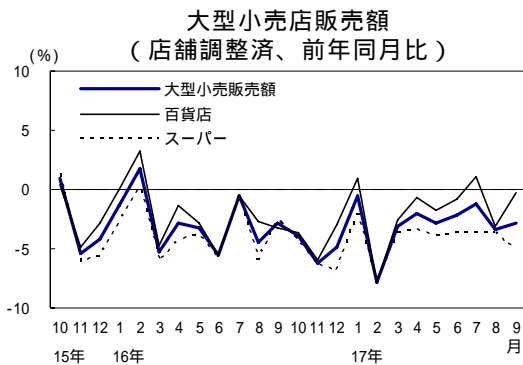
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クールビズやクリアランスセールの効果から衣料品や身の回り品が好調であったことから、6か月ぶりに前年を上回った。8月は、猛暑で夏物衣料が好調であった昨年の反動などにより、主力の衣料品が伸び悩んだことから、前年を下回った。9月は催事やセール効果により身の回り品や衣料品に動きがみられたが、飲食料品が伸び悩んだことから、2か月連続で前年を下回った。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の10月の売上高総額は前年同月比1.5%減となっている。

スーパーは、米や野菜の相場安により期を通じて主力の飲食料品が伸び悩んだことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

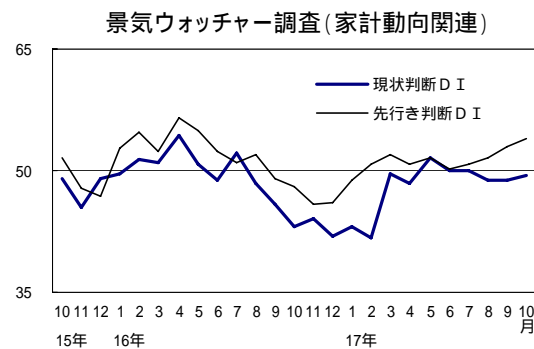
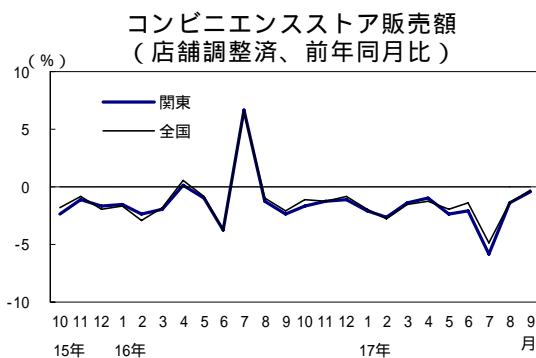
「全体的には購買意欲の高い客が多いが、衣料品の実需よりも物産展などのイベント関連の消費が目立つ。消費のきっかけを求めているように見受けられる(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	5.0	3.6	2.4	2.4
百貨店	4.1	2.9	1.1	0.5
スーパー	6.0	4.4	3.6	4.1
コンビニ	1.3	2.1	1.8	2.6
景気ウォッチャー	43.0	44.8	50.0	49.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。17年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

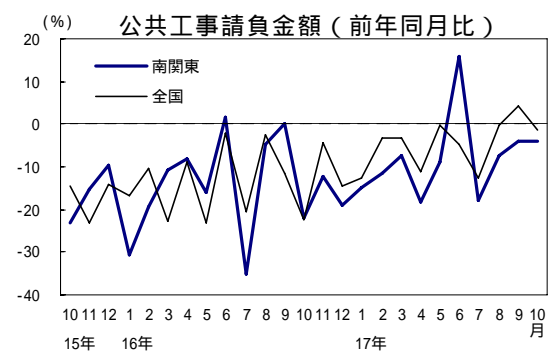
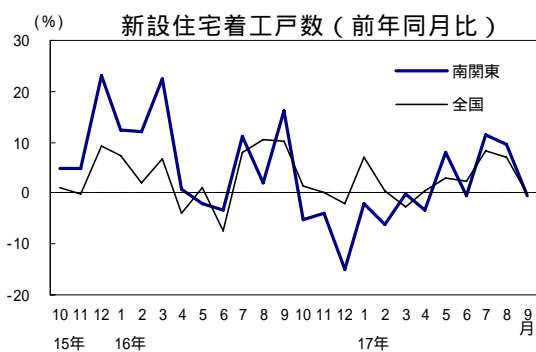
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

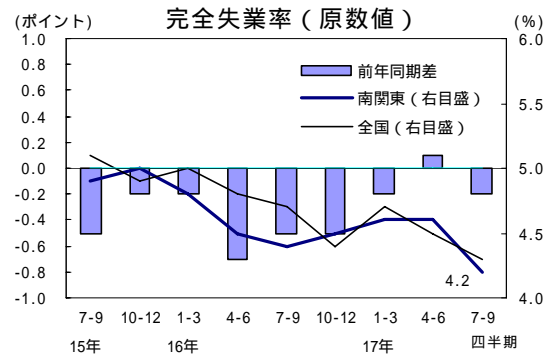
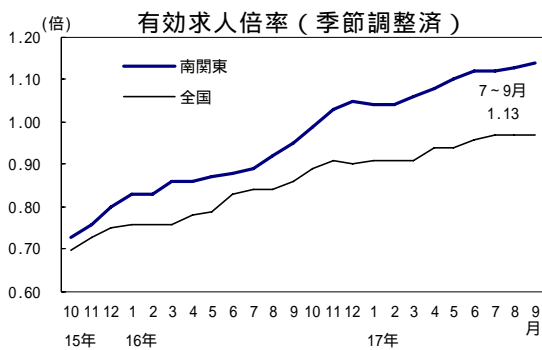
持家が前年を下回ったものの、分譲、貸家が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

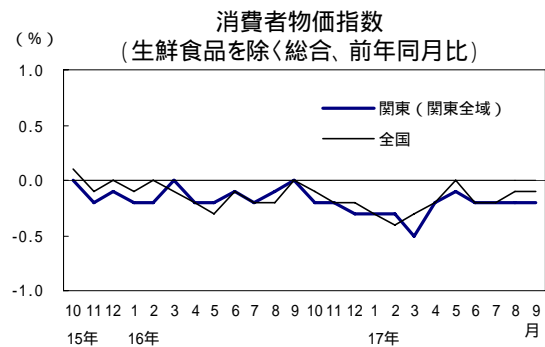
「求人件数にはさほど変化はないが、アルバイト、パートと比べ正社員の求人比率が高まっている（求人情報誌製作会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

- (3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月	17年10月
倒産件数	1,007	940	915	897	317
（前年比）	13.4	19.8	14.9	16.9	9.2
負債総額	7,080	6,518	4,466	4,539	2,668
（前年比）	10.2	49.4	40.8	37.4	51.8



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 10月には天候不順にもかかわらず、全般に商品の動きが良くなっている。特に、景気回復の最終局面でないといわれないと動かないといわれている紳士服が、継続して前年以上の売上となっている。また、他県の支店ではプロ野球の優勝セールを実施し、セール期間中は前年の1.5倍の売行きになるなど、販売に勢いが出てきている（百貨店）。

<先行き>

- 求人数が増加している。30代が欲しいが、40代、50代前半でもよいとの声も聞かれる（民間職業紹介機関）。

景気ウォッチャー調査（合計）

